

## 中田範夫先生のご退職にあたって

中田範夫先生は、昭和51（1978）年に山口大学経済学部を卒業された後、昭和56（1983）年神戸大学大学院経営学研究科会計学専攻博士課程を単位取得退学され、同年流通経済大学経済学部講師として研究の道に入られました。その後、昭和59（1984）年に山口大学経済学部講師として採用、昭和60（1985）年2月に助教授に昇任の後、平成5（1993）年2月に教授に昇任されました。経歴からわかるように、山口大学経済学部においては、35年の長きに渡り教育、研究及び運営に尽くしていただきました。

学部内では、学生委員会委員長、財務委員会委員長、就職支援委員会委員長、財務施設委員会委員長、医療・福祉経営コース委員会委員長など要職を歴任され、平成22（2010）年には評議員、平成24（2012）年からは学部長として、盟友である平中副学部長と共に経済学部を支えていただいたことは記憶に新しいところです。

教育面では、学部学生および大学院生の会計学分野の理解の向上に努め、多くの優れた卒業生及び修了生を世に送り出しました。経済と法2 [環境・医療と会計]、原価計算論1、医療マネジメント、大学院経営学研究科では、活動基準原価計算論研究、医療経営研究、東アジア研究科では、社会動態理解基盤演習、原価計算論特別講義などをご担当いただきました。

また、学外においては、厚生労働省中国四国厚生局の中国地方社会保健医療協議会、山口県企業立地促進補助金等審査会委員、宇部市ガス事業検討委員会委員、山口県教育委員会、山口県立病院機構評価委員会、全国健康保険協会山口支部評議会評議員および山口大学後援財団選考委員会等において委員を歴任するなど社会貢献もされてきました。

学術研究面では、ドイツの原価計算について研究し、その成果を著書『ドイツ原価計算論—直接原価計算を中心に—』（晃洋

書房，1997年）にまとめました。更にその後，病院のマネジメントや行政機関の業績評価について研究を行い多くの成果を挙げました。

さらに，平成21（2009）年には経済学研究科に医療福祉経営コースが設置されましたが，わが国の医療・福祉機関の指導的役割を担う高度医療経営の人材を育成するため，その立ち上げから運営に関して多大なる貢献をしていただきました。我が国の社会保障，特に年金・医療は多くの問題を抱えており，山口大学において医療と経済・経営の融合により新しい領域を切り開くための基礎ができあがったのは中田先生のおかげです。これらの研究成果は『東アジアの医療福祉制度：持続可能性を探る』（中央経済社，2018年）にまとめられています。その他，単著，共著を含め，執筆論文も多数ありここでは紹介しきれません。所属学会は，日本医療バランスト・スコアカード研究学会，日本原価計算研究学会，日本会計研究学会，中四国経済学会など多岐にわたり，研究活動も幅広くご活躍いただきました。

中田先生の大きな笑い声と堂々たる学部長職の姿は，いつまでも強く印象に残っています。これも山口大学経済学部卒業生として，経済学部を長きにわたり愛し，見守ってきたからこそのお姿だったのだと当方が学部長職を拝命してのち，より一層理解することができるようになりました。

どうかこれからも卒業生として，そして元学部長としてこれまで以上の愛情で山口大学経済学部を見守っていただきますようお願い申し上げます。最後に中田先生の今後のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ，巻頭言とさせていただきます。ありがとうございました。

平成31年3月31日

山口大学経済学部長 兵 藤 隆